

# せたがやの文化財

No. 024

平成23年度事業報告

～ 旧小坂家住宅改修工事が完了しました～



玄関のある主屋棟外観

旧小坂家住宅は、衆議院議員等を歴任した小坂順造氏（1881-1960）が、昭和12年（1937）に玉川別邸として建てたものです。その後、建物は世田谷区に寄贈され、国分寺崖線の斜面に広がる庭園とともに「瀬田四丁目広場」の施設として利用されています。

平成21年に行った耐震診断の結果一時立ち入りを中止し、さらに平成23年3月に発生した東日本大震災により、壁のひび割れや剥離等の被害を受けたため、耐震補強と老朽化部分の補修工事を実施し、あわせてト

ご利用について

所在地 瀬田四丁目41-21（区立瀬田四丁目広場内）

開園時間 午前9時30分から午後4時30分まで

休園日 毎週月曜日（月曜が祝日の場合は次の平日）

年末年始（12月29日から1月3日）

入園料 無料

見学等の問い合わせ

（財）世田谷トラストまちづくり

TEL 03-6407-3311 FAX 03-6407-3319



寝室

新しく登録・指定された文化財	
宇津木家文書	1~2
旧奥沢村原家文書	3
紙本白描応現觀音図	3
代田八幡神社鳥居・Y家住宅	4
祖師谷大道北遺跡出土独鉛石	5
平成23年度事業報告	
文化財の展示をごらんください	6
せたがや文化創造塾・沖縄・組踊特別鑑賞会	7
旧小坂家住宅の改修工事が完了しました	8

# せたがやの文化財

No. 024

新しく登録・指定された文化財



区指定有形文化財（古文書）  
宇津木家文書

井伊直弼筆 和歌「宇津木別荘の歌」年不詳 紙本墨書き 縦50.0cm×横46.2cm

むつき廿日まり平田なる  
宇津木の別荘に立ちよりて  
春あさき  
いけの汀のみさわ  
水まで  
打ちとけてくむ  
けふのさかつき  
はることにこの屋にこし事いと  
ふるくよりの例なればとて  
ことしも立よりたるにいとく  
興なる所なれハいく春かけて  
とふらはん  
とおもひて  
千よろつも問んとそおもふ  
この屋戸のミきりの池の  
すまんかきりは

編集・発行  
世田谷区教育委員会事務局  
生涯学習・地域・学校連携課 文化財係  
〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27  
Tel 03-5432-2726 Fax 03-5432-3039  
<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/>

発行日 平成24年3月1日  
再生紙を使用しています

区指定有形文化財（建造物）  
代田八幡神社鳥居



区指定有形文化財（考古資料）  
祖師谷大道北遺跡出土独鉛石



区登録有形文化財（古文書）  
旧奥沢村原家文書



国重要文化財（絵画）  
紙本白描応現觀音図  
外題下に玄証の花押がある  
財団法人五島美術館



国登録有形文化財（建造物）  
Y家住宅（非公開）



解説は次ページ

## 区指定有形文化財（古文書）

## 宇津木家文書

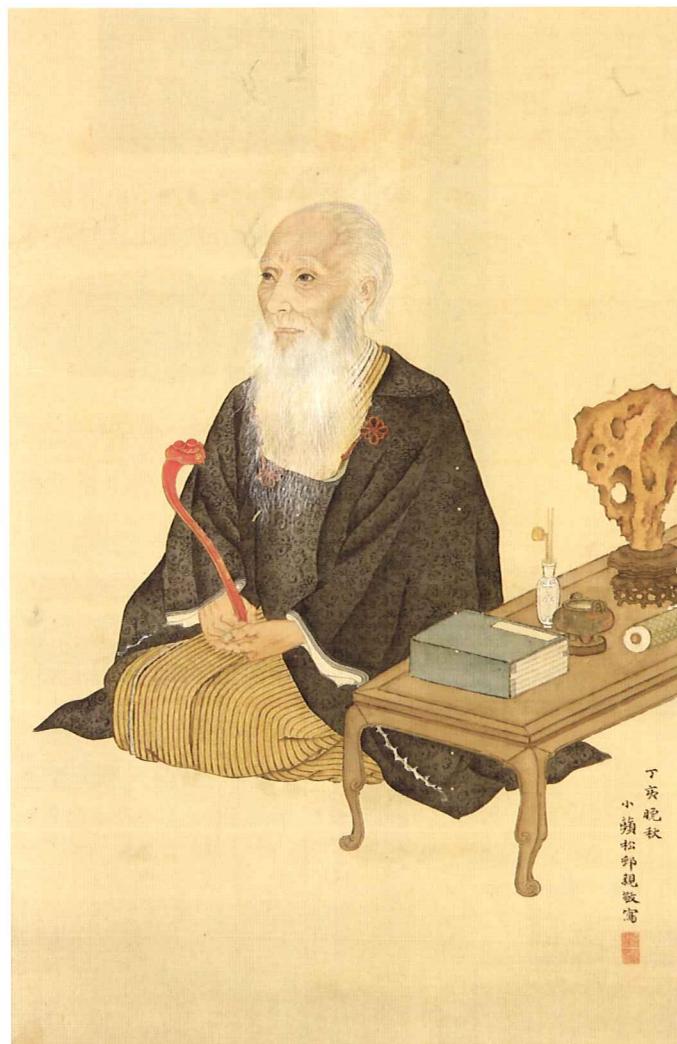
1629件

指定年月日 平成23年12月19日

所 在 地 世田谷1-29-18

区立郷土資料館（寄託品）

宇津木家の祖、初代治部右衛門氏久は、天正18年（1590）、井伊直政に召し出されましたが、自らの代わりに嫡子・勝三郎泰繁を井伊家に仕官させました。ぐだって享保5年（1720）5代当主久英が初めて



野口小蘋筆 岡本黄石喜寿肖像画（部分）  
明治20年（1887） 絹本着色・軸装  
縦112.2cm×横42.9cm

## 【表紙解説】

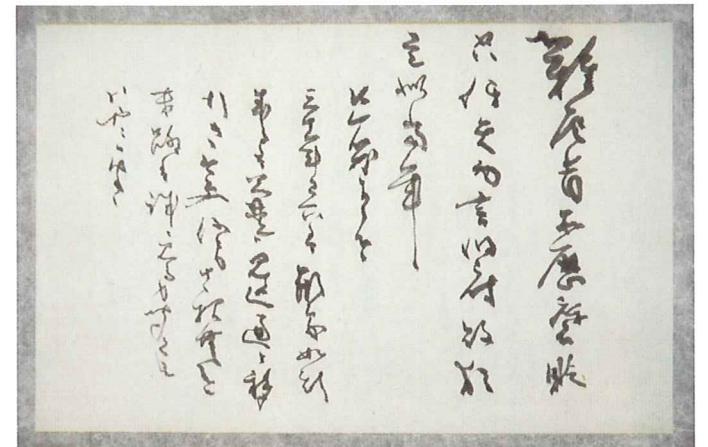
彦根・平田村にあった宇津木家の別荘・濠梁園に井伊直弼が立ち寄った際、書して贈った和歌。代々の彦根藩主がここを訪れることが恒例行事となっていました。

彦根藩の家老となり、以後、宇津木治部右衛門家は、代々同藩の家老職に就く家柄となりました。

幕末期に同藩家老を勤め、のち明治漢詩壇の重鎮となる岡本黄石が、この家の出身である関係で、同家には、治部右衛門家の文書とともに、岡本黄石に関する史料も遺されています。

治部右衛門家の文書には、近世初期の領地宛行状や家譜、大塩平八郎の乱の折、師・大塩の輕挙を諫めて殺害された宇津木静区（黄石の兄）の書簡、井伊直弼直筆の書などが含まれます。

また、岡本黄石関係史料は、彼と交流のあった政治家・文人墨客の書簡・書画・詩稿がその大半を占めます。これらは、明治漢詩壇の動向を知る上で重要なばかりでなく、美術品としても高く評価されます。



かつかいしらう 勝海舟書簡 明治31年（1898）

【読み下し】

いやニ御座候、	末路は誠ニ見るも聞くも	ござんぜつく
いやニ御座候、	行き、今更何ニも申候様無之候、	ことば
成るは兼而見込ニ移	三十年已下は形象如斯	ことば
御一笑可被下候、	只任天勿言旧府敗猶	ことば
難厄昔所歴褒貶	是似当年	ことば
御一笑可被下候、	御一笑可被下候、	ことば

日露戦争後の社会情勢が、幕府瓦解当時のそれに似ていることを嘆く手紙。「末路は誠ニ見るも聞くもいやニ御座候、」という悲痛な詞で結ばれている。ちなみに前半部分は海舟自作の五言絶句。

## 登録有形文化財（古文書）

## 旧奥沢村原家文書

222点

附 寛政3年（1791）～明治17年（1884）

伊勢暦 73点、

明治8年（1875）の太陽暦 1点

指定年月日 平成23年12月19日

所 在 地 世田谷1-29-18

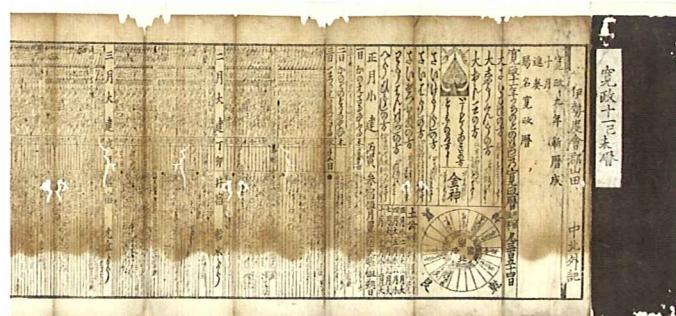
区立郷土資料館（寄託品）

原家は旧荏原郡奥沢村の年寄を代々勤めた旧家です。同家文書には、元文元年（1736）から天保12年（1841）まで100余年の期間にわたる金銭出納帳（全8冊）が残されています。その支出の項目には、①年貢の納入・諸役②下掃除代金（金肥購入）③衣類、塩、多葉粉、酒、薬、醤油等の生活用品代などが見られます。収入については、大根、牛蒡などを生産出荷し、現金収入を得ていたことがわかります。この帳面からは、江戸近郊農村における庶民生活の多様性とその豊かさをうかがい知ることができます。

このほか、同家文書には寛政3年（1791）から明治17年（1884）までの伊勢暦が遺されています。江戸時代の農家では、伊勢暦を重宝に使っていましたが、原家のようにこれがまとまつたかたちで遺されているのは珍しく、同家文書の特徴ともなっています。



なす おぼえちょう 茄子覚帳 元文元年（1736）9月



伊勢暦 寛政11年（1799）

## 国指定重要文化財（絵画）

## 紙本白描應現觀音圖

1枚

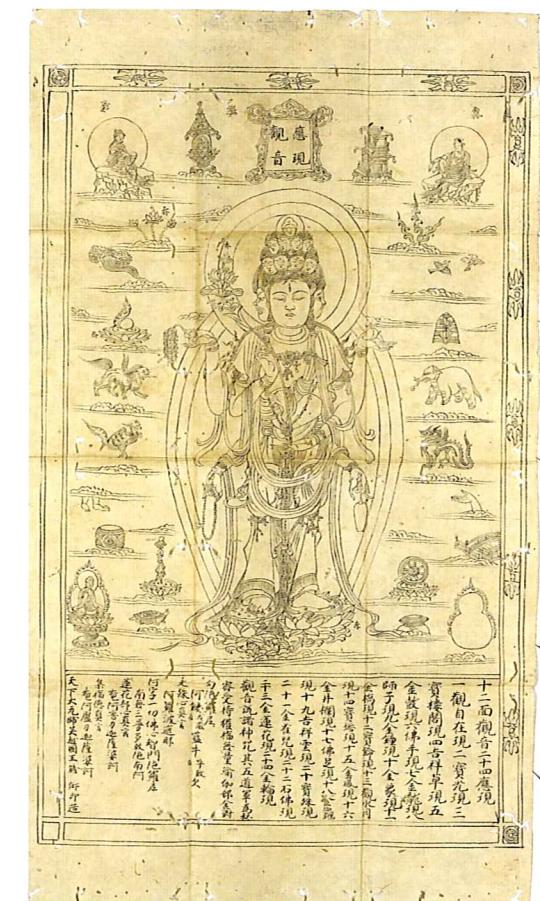
外題下に玄証の花押がある

指定年月日 平成23年6月27日

寸 法 縦54.7cm×横31.1cm

所 在 地 上野毛3-9-25

財団法人五島美術館



この観音図は、10世紀後半の中国吳越国王・錢弘俶の命によりつくられた版画が、わが国に輸入され、それを12世紀・平安時代末ころ、玄証という高野山の僧が写した図像です。墨の線だけで完成された白描といふ技法で表されています。

裏面には京都右京区にある梅尾山高山寺の印と、図を書き写した玄証の花押があります。玄証はこうした白描図像を数多く残したことで有名です。

観音菩薩は変幻自在に姿をかえて民衆を救うといわれ、下段の文章（偈）と周囲に配された図によって24の変化（應現）の内容を知ることができます。

本図は、中国における当時の仏教思想や絵画・版画の様式、またわが国鎌倉時代の仏教絵画に与えた影響を知る上でも貴重な作品です。

## 区指定有形文化財（建造物）

## 代田八幡神社鳥居

1基

指定年月日 平成23年12月19日

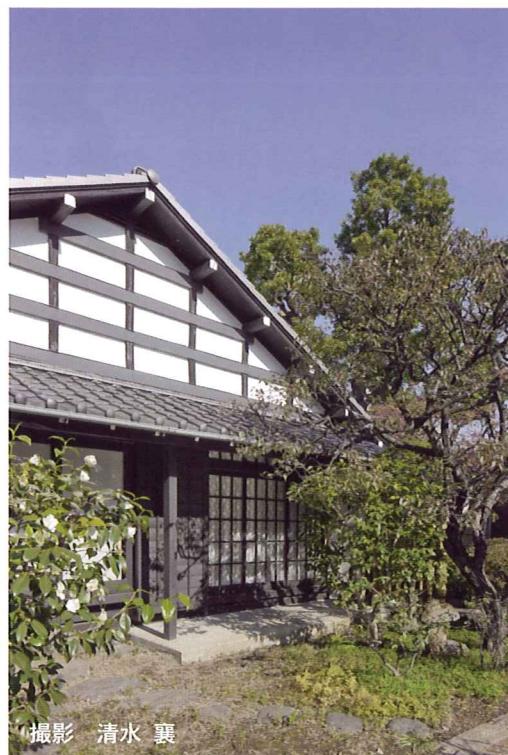
所 在 地 代田3-57-1

代田八幡神社の草創は詳らかでないが、社伝によれば天正19年（1591）に代田村が開村し神社を創建したといわれています。



撮影 清水 裏

現在、区内にある鳥居のうち建立年代が分かっているもので最も古いものは、承応3年（1654）建立の区指定有形文化財に指定されている喜多見氷川神社の石造鳥居で、代田八幡神社鳥居はこれに次ぐ古いものです。



撮影 清水 裏

## 国登録有形文化財（建造物）

## Y家住宅

1棟

指定年月日 平成23年10月28日

所 在 地 大原1丁目（非公開）

この住宅は木造平屋建て瓦葺きで、昭和26年（1951）に建築されました。南側の庭園に面して大きく妻（屋根の三角部分）を見せ、深い庇をつけています。玄関とホール、テラス、四畳半の和室、納戸からなる小規模な住宅です。柳宗悦・河井寛次郎らによって大正末年に始められた民芸運動の影響が見て取れる住宅で、伝統民家の構成を引用しつつ近代的な印象でまとめています。

## 区指定有形文化財（考古資料）

## 祖師谷大道北遺跡出土独鉛石

1点

指定年月日 平成23年12月19日

寸 法 長さ14.3cm×幅3.4cm

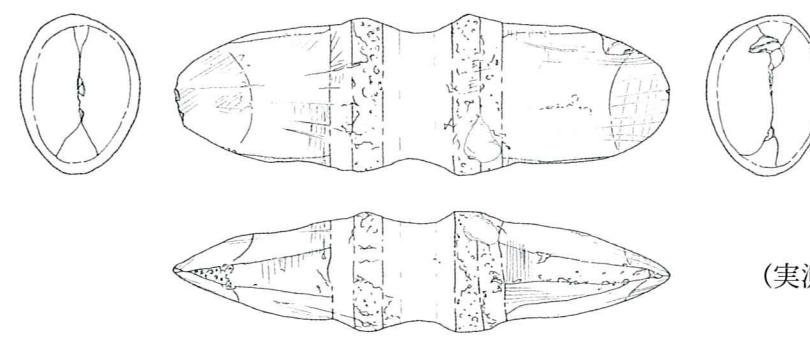
重量300グラム

年 代 縄文時代晩期  
(約3,500年前)所 在 地 宇奈根1-8-21  
宇奈根考古資料室

この独鉛石は、祖師谷大道北遺跡（上祖師谷6丁目）37号住居跡から出土した石器です。独鉛石は、そ



(実物大)



(実測図・約2分の1)

のかたちが仏具の独鉛に似ていることから名付けられました。

この石器は、縄文時代後期（約3,500年前）から弥生時代中期（約2,000年前）にかけて使われたものです。初め頃は両側が同じ大きさをしていて、刃がついた実用的な斧であったと考えられています。本例も刃の先端や中央の凹みには使われた跡がみられます。

独鉛石は、東日本各地から1,000点ほどが出土していますが、東京都内で完全な形での独鉛石の出土例はわずかに数点で、区内では初となります。

本出土例のように、縄文時代晩期の石器が古墳時代（約1,800年前）の住居趾の棚の上に置かれた状態で出土することは、極めてまれな例といえます。

## 文化財の展示をごらんください

区内には、私たちの先祖が残した文化財が各地にあります。文化財はいつ頃のもので、どんな種類があるものなのか、さまざまな疑問がわいてくるかもしれません。教育委員会では、区の歴史や各文化財について知つていただく展覧会を開催しています。詳しくは区のおしらせ「せたがや」、区ホームページで紹介します。

ぜひご覧下さい。



次大夫堀公園民家園展「麦の民具」



区立郷土資料館特別展「等々力渓谷展」



宇奈根考古資料室特別展  
「瀬田遺跡環濠出土の古墳時代土器」

## 文化財保護強調週間2011

11月1日～7日は文化財保護強調週間です。この期間中は文化財に親しむことを目的に、毎年関連する催しが行われています。

### ■吉良氏ゆかりの地を訪ねて…

日 期 平成23年9月29日(木)・30日(金)  
会 場 豪徳寺、勝国寺、区立郷土資料館ほか

### ■第4回 野毛古墳まつり

日 期 平成23年10月15日(土)・16日(日)  
会 場 区立野毛町公園(野毛1丁目)

### ■区立岡本公園民家園

#### 開園30周年記念写真展

題 碑 古民家 第2章 華やぐ古民家  
会 期 平成23年11月1日(火)～14日(月)  
会 場 世田谷区役所第2庁舎1階ロビー

### ■第6回世田谷区遺跡調査・研究発表会

日 期 平成23年11月26日(土)  
会 場 区立教育センター(弦巻3丁目)

## せたがや文化創造塾

### ■秋の講座

平成19年度より開講した「せたがや文化創造塾」は、今年で5周年を迎えました。区立教育センター(弦巻3丁目)を会場に行われた平成23年秋の講座は、世田谷地域の歴史、美術工芸史、考古学、文化財保護の例など幅広い内容となりました。

実施については、区のおしらせ「せたがや」、区ホームページでご案内いたします。

### 平成23年度実施講座

花入の歴史と魅力をさぐる	竹内 順一(永青文庫館長)
浮世絵の時代—嘉永文化の実態—	吉原健一郎(成城大学名誉教授)
世田谷区域の年中行事	田中 宣一(成城大学名誉教授)
朝鮮歴代王朝の都と日本の都	片桐 正夫(日本大学名誉教授)
家計簿からみた農民の暮らし 近世・近代世田谷地域の「金錢出納帳」を中心に	森 安彦(国文学研究資料館名誉教授)
世田谷の身近な文化財を守るために —被災地長野県栄村の民具保全活動から学べること—	石野 律子(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員)
岡本の武家屋敷門—この門が辿った軌跡—	稻葉 和也(建築史家)
縄文文化研究の最先端 —縄文時代文化研究の行方—	山本 晉久(昭和女子大学大学院教授)
考古学と文化財の保護	早乙女雅博(東京大学大学院教授)

### ■ボランティア養成講座

考古学ボランティア養成講座では、平成23年度より平成26年度まで4年間をかけて本物の土器を使って考古資料の取り扱いなどについて学んでいます。

また、建造物講座は、平成24年2月で修了しました。民具整理講座修了生は、岡本公園民家園旧長崎家住宅内の民具調査を実施しました。

## 沖縄・組踊特別鑑賞会

日 期 平成23年9月23日(祝・金)  
会 場 世田谷区民会館ホール(世田谷4丁目)

沖縄の古典芸能である組踊は、ユネスコの世界無形遺産、わが国の重要無形文化財に指定されています。世田谷区では初めて、組踊特別鑑賞会が開かれました。

鑑賞会は、第一部琉球舞踊「老人老女」ほか、第二部の組踊では、「饒辺真山戸(ユフィンメーマトウ)」という恋物語が披露され、会場を埋めた観衆から喝采が送られました。

鑑賞会の前日には、人間国宝、照喜名朝一氏によ



るワークショップ「琉球古典音楽への招待」が岡本公園民家園旧長崎家住宅にて催され、同氏より直接三線の手ほどきを受けました。